



全国自転車議員ネットワーク リレー寄稿 No.3

宇都宮市が「自転車のまち」になるまで そして、これから

文

宇都宮市議会議員 熊本 和夫 (くまもと かずお)

本ページの担当事務局：特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 事務局
〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階
TEL 080-3918-2932 URL <http://www.cyclists.jp/>



地元でプロロードレースを 作りたい

私は、平成15年に宇都宮市議会議員に初当選をいたしました。その後運動不足を解消するため、自分の時間に合わせて気軽に楽しめる運動ということで選んだのが自転車(ロードバイク)。そこから、一気に自転車の魅力に引き込まれていきました。なぜ、自転車を選んだのかといえば、宇都宮市は、平成2年にロードレースの世界選手権がアジアで初めて開催された土地であり、その後世界選を記念し、平成4年からジャパンカップサイクルロードレースが開催されている街です。あわせて、競輪の主催地でもあり神山雄一郎選手などを輩出し、自転車競技というものを身近に感じられる街であったというのが契機となったのは間違いのないところだと思います。

それまでの趣味としての自転車を、私が、議員として自転車競技、自転車行政に傾注していくきっかけとなったのは、ある二人との出会いでした。その二人とは、宇都宮BLITZENの運営会社の社長

である柿沼 章氏、チームのGMである廣瀬佳正氏の両氏です。

当時、プロのロードレーサーであった廣瀬選手が、地元でプロロードレースチームを作りたいという企画を考え、知人の紹介で日本に帰国した際にお会いし、その思いに共感しました。

宇都宮市では、自転車の利用者が多く、そして競技としての自転車の歴史があるにもかかわらず、自転車がクローズアップされることが少なく、現にジャパンカップサイクルロードレースもやめるべきという議論も出ていました。今でこそ自転車人気により、多くの観客を集めるまでになりましたが、その当時はマイナースポーツでした。しかしその歴史の価値を自分自身はわかっていたつもりであり、その価値を市民にわかりやすく伝えていく存在が必要であり、我々が考えたわかりやすい伝え方の答えが「宇都宮BLITZEN」というチームでした。廣瀬氏、柿沼氏と私達の思いが一致し、2008年に共に運営会社を設立し、日本初の地域密着型プロロードレースチームへと進んでいきました。

プロロードレースチームという広告塔を得た後は、一気に宇都宮市は「自転車のまち」としての勢いが加速していきました。特にジャパンカップサイクルロードレースは、長年続いてきた競技でしたが、認知度からすれば、ロードレースの好きな人は知っているが、その他の方には知られていない。この競技が宇都宮で開かれていることの価値を高める為の試みが、2010年から始まった市街地におけるクリテリウムです。

子どもたちに 親しんでもらうために

我々は、ジロ・デ・イタリアの100周年大会に赴き、トリエステの市街地部の周回レースを見ました。街全体がお祭りのように自転車レースで盛り上がる様子を見て、この盛り上がりや宇都宮でも、という思いで取り組み、市長や警察、中心市街地、各種ボランティアの方々の協力により開催するに至りました。その後は、コースの延長を求める陳情が出されるなど

市民に愛されるイベントへと成長し、現在では、クリテリウムで4万2千人、ロードレースで8万3千人の来場者を迎える市の一大イベントへと成長し、20億円以上の経済効果を生んでいます。

更に、自転車への理解を深めていただくため、欧州各国のように自転車を文化として親しんでもらうため、子供たちへの自転車教育を浸透させる事にも重点を置き、栃木県内の幼保小中高、そして企業や団体などにBLITZEN選手が直接赴いて自転車教室をするという活動を行っております。2週に1回はプロ選手が直接子供達に直接教えております。その結果、子供たちへの安全教室は、2015年末で3万人を超えるまでになりました。その子供達に、結果として自転車、ジャパンカップ、チームへと大きな興味を持ってもらえるのです。

そのような中で、宇都宮における自転車への認知度は一気に高まってきたものと考えます。自転車の通勤・通学などの利用者数や環境の土台はありましたので一気に浸透をしてきました。平成25年の総務省家計調査では、1世帯当たりの自転車購入額全国1位になりました。

自転車に親しむ人の増加と共に、走る環境の整備も進んでおります。宇都宮市では平成22年に「宇都宮市自転車のまち推進計画(前期

計画)を策定し、だれもが安全で快適に楽しく自転車を利用できる「自転車のまち宇都宮」の実現のため自転車走行空間の整備などに取り組んでまいりました。そして本年、前期計画より5カ年が経過し、新たに後期計画を策定しました。

計画の内容は、新たに施策の柱として「自転車につながる」を設定。これまでの「安全」「快適」「楽しく」「健康とエコ」の4つの施策の柱に加え、「つながる」を掲げました。「つながる」の柱の下、LRTやバスなどの交通手段と自転車を組み合わせた自転車ネットワークを設定し、利便性を高めるなど、子どもから高齢者まで誰もが快適に移動できる「交通未来都市 うつのみや」を目指します。

JR宇都宮駅前に、ロードバイクのレンタル、自転車の各種講座や、シャワー室を備えた「宮サイクルステーション」の設置や、コンビニなどを自転車の駅として空気入れや工具などを備え、サイクリストが安心して楽しめる環境を作ってきました。

更に前期計画より更に強化する施策として、日本一の整備延長(21.7km)を誇る自転車走行空間を更に延長し、5カ年で36km伸ばし、57.7kmまで整備延長する予定です。整備の中で課題となっていた交差点内での自転車走行空間についても「矢羽根」などの活用により自転車道の連続性の確保

にも注力していく予定です。

その他、JR宇都宮駅からジャパンカップコースを結ぶルートのご案内誘導の路面表示を検討し、レースを通じた誘客促進、ブランド力の強化、LRTへのオフピーク時における自転車の積載などの公共交通とのつながりを強化していくことや、「自転車の日」を設定し、「自転車のまち 宇都宮」の魅力を高め市内外にPRしていく予定です。

5年後には自転車に関係する交通事故件数を現状429件から320件以下へ、自転車分担率を現状20%から25% (中核市トップクラスの分担率)、市民満足度を現状29.6%から50% (世界トップクラスの自転車施策に対する満足度)へチャレンジしていきます。

最後に、これから全国的に自転車の施策はさらに推進されていくことと思います。しかし、自転車レーン一つを取っても、色や形状が違う例や、交通ルールについても全国で統一的に理解をされているわけではなく、整備方法も地域様々であります。これだけ自転車が全国的に注目されている時にこそ、自転車に対するジャパンスタードというものを確立すべき時に来ていると思うと同時に、自転車文化を確立するチャンスでもあります。今後、自転車行政に積極的に取り組む、日本中の都市間、議員間の連携が広まることを望みます。 **PP**